

山の丸大車侍家等後殿の友東は月舎人京の赤松清宗
寺の位階資房の末の位大内言達位階資房の位あり
出房の嫡子照定を養育位大内言達位階資房の位あり
行儀をとり後年大内言達位階資房の位あり
正徳元年八月二十日
中九月廿七日正仁親王基清出御の事
文
清

文
清
長

長
中
日
源
と
徳
い
お
い
い
い

文昭

法野女

蓮華院殿

於其母の言ハ格首格中切ニ渡朝の末葉ニシテ格首格首
從二位陸奥守の法娘ニシテ実ハ宮地重喜
二の玉初會ニ稱シ大内卿若原重基の母也後蓮華院殿ニ
稱ス

藤子代若

清母堂

法心院殿

右邊の法子のち日成少くも大内少輔と云ふ初ハ一宮子の傍ニ
シテ道智の母也との遷俗ト云ハ娘トシテ

文昭の母也 藤子代若は清母堂也

後法心院殿ニ稱シ実重喜の母也大内少輔ニシテ後ハ内記
記ハ甲子年歿スルニ云フ名也 後ハ重喜の列ハ重喜の母
大内少輔重喜ニシテ後ハ内記記ハ重喜の列ハ重喜の母
也重喜の母也

右徳公

清母堂

淨由院殿

淨由院殿ハ中井大和の別稱ニシテ巨勢成之中井重徳さまの
母ニシテ大内少輔重喜の母也大和の中井重徳さまハ重喜の母也日本
恵大との稱也 柳村重徳ハ重徳の母也

家之重公

清之盛中

證明院殿

比の宮君の身相院より宮子の後院付見の清所自^{ナキ}改親王の
清丸安の信天と稱し 紀伊大領云々自々 中角云々清丸
明暦二年の九月紀伊社殿より清丸入樂より

寛永四年二月題名法名

天真院殿母仁日帷大姉

此の宮君の身相院より宮子の後院付見の清所自^{ナキ}改親王の
清丸安の信天と稱し 紀伊大領云々自々 中角云々清丸
明暦二年の九月紀伊社殿より清丸入樂より

寛徳院殿云々真日中上之姉

其の宮君の身相院より宮子の後院付見の清所自^{ナキ}改親王の
清丸安の信天と稱し 紀伊大領云々自々 中角云々清丸
明暦二年の九月紀伊社殿より清丸入樂より

大納言盛品云々若

清之盛中

幸子の清丸安の信天と稱し 紀伊大領云々自々 中角云々清丸
明暦二年の九月紀伊社殿より清丸入樂より

210.5
2

方崎三郎
大正五年六月

